

Rubyはもう現実だ

先進企業10社にみる最新導入事例

安藤 正芳

Rubyは確かに注目を集めているし、技術者は増えている。それでも、本格的に利用している企業は、まだ少ないのではないか。こんな印象を抱く読者が多いかもしれない。

だが、実際にはそうではない。ニフティや楽天のようなネット系企業から野村総合研究所（NRI）などの大手システム・インテグレータまでが、すでにRubyを採用している（表1）。適用したアプリケーションの規模はまだそれほど大きくないが、各社とも「コードがわかりやすく、生産性が高い」と異口同音に語る。Ruby自体の魅力に加えて、Webアプリケーションの開発フレームワーク「Ruby on Rails」の存在が、導入を加速する要因となっている（本号68ページのPart5を参照）。実際、今回取り上げる企業すべてがRuby on Railsを利用している。

以下、駆け足になるが10社のRuby導入事例を紹介しよう。Rubyがすでに現実になっていることをぜひ感じてほしい。

写真1 ニフティの社内勉強会の様子



ニフティ 研修が実アプリ開発に発展

「Javaに比べて、開発環境の構築が楽だし、メンテナンスも容易。何より開発者が楽しみながらプログラミングしていることが違う」。ニフティでWebアプリケーションの開発を手がける、鎌仲敏勝サービスクリエーション部のゼネラルマネージャーは、Rubyをこう評する。

ニフティは今年2月28日、新たなWebサイト「@nifty TimeLine」を立ち上げた（図1）。ユーザーが自分のWebページにスケジュール表を設定し、そこにテキストや画像を使って自分に起きた出来事やプロジェクトの進捗などの情報を投稿できるようにしたものだ。この@nifty TimeLineが、ニフティにおける初の本格的なRuby採用事例である。

ニフティが@nifty TimeLineのプロジェクトを立ち上げたのは、2006年秋。当初は、Rubyを試しに試してみる研修の一環という位置づけだった。

ニフティがWebアプリケーションの構築に使っている開発言語は、CやJava、Perlなど。これらの言語に関して、共通の開発プラットフォームや利用するフレームワークを決めている。にもかかわらず、Rubyの採用を決めたのは、担当者の1人が06年7月、Ruby on Railsの研修に参加したことがきっかけだった。「このときに、Rubyがコンシューマ向けサービスを手がけ

る当社に適していると実感した」と、研修に参加したサービスクリエーション部の濱中慶氏は話す。

「Rubyなら同じ処理を書くのにソースコードが短くて済むので、保守が容易。Javaのようにコンパイルし、さらにサーバーをリポートするといった作業も必要ない。これなら、ユーザーの声をすばやくシステムへ反映できる」（同）。Ruby on Railsが備えるテスト・ツールなども魅力だったという。

Rubyに手応えを感じた濱中氏は、鎌仲マネージャーに報告。鎌仲マネージャーはその秋に、新たなWebサイトを立ち上げるプロジェクトの一部として、エンジニア3人を@nifty TimeLineの開発に充てた。

Javaだったら 倍の期間を要した

とはいえ、@nifty TimeLineの開発はまだ研修の位置づけで、そもそも3人ともRubyの知識はほとんどないに等しい。まずは参考書を1～2週間かけて熟読。その上で、@nifty TimeLineの仕様を大まかにまとめて、開発に取りかかった。3人とも通常業務と並行しながらの作業で、リリース時期なども決めていなかった。

それでも、@nifty TimeLineは4カ月で完成した。参加メンバーの1人であるサービスクリエーション部の秋好陽介氏は「想像以上のスピード」と驚きを隠さな

表1 主要企業のRubyに対する取り組み

企業名	開始時期	取り組み内容
アスタリクス	2006年10月	SaaSの基盤にRuby on Railsを採用。2007年1月には、オープンソースのCMS（コンテンツ管理システム「Rubricks」を開発し、公開した
伊藤忠テクノソリューションズ	2006年8月	07年1月から社内でトレーニングを本格化した。すでにコンシューマ向けの案件が3件ある
永和システムマネジメント	2006年3月	技術者約20人を集めてRuby on Railsの勉強合宿を開催した。アジャイル開発の手段として、現在3分の1がRubyを利用したプロジェクトになっている
京セラコミュニケーションシステム	2006年9月	今年中に完成予定の社内のコミュニティ・サイト「ふれあい広場（仮称）」にRuby on Railsを採用している
ケイビーエムジェイ	2006年8月	Rubyを利用したブログ・エンジン「RuBlog（ルブログ）」やブログ・SNS・CMSを一体化した「ポータルリング」を出荷した
TIS	2005年10月	アジャイル開発を助ける言語になると感じ、研究所レベルで導入を開始した。05年12月に社内SNSをRubyを使って構築した。毎週機能追加などのアップデートをしている
ドリコム	2006年4月	ユーザー情報の管理やログイン・パスワードを一元化するドリコム・アカウントでRubyを採用。今後のBtoC案件は全部Rubyで構築していく。06年7月には、社内でRuby on Railsを使ったアプリケーションを作成するコンテストを実施した
ニフティ	2006年9月	会員向けWebサービスである「@niftyTimeline」を構築した。同社のセキュリティ・チェックツールを通して安全性が確認されたため、サービスを開始した
野村総合研究所	2006年4月	若手エンジニアからの要望があり、Rubyでシステムを構築した。今後Web2.0時代のプログラミング言語として採用が増えている
楽天	2006年10月	約10人で構成するRuby専門部隊を発足。ネットワーク応用通信研究所の協力を得て、WebアプリケーションにRubyを採用した。社内におけるRuby on Railsを利用した開発手法の標準化を図る。07年5月には、まつもとゆきひろ氏がフェローに就任した

い。「Javaで開発すると、ちょっとした変更でもコンパイルなどに時間をとられてしまう。感覚的には、Javaだと倍以上の時間がかかってしまう」（秋好氏）。さらに同氏は、「もしも@nifty TimeLineの開発に専念していたら、今回の半分以下の期間で構築できたのではないかと付け加える。

@nifty TimeLineのプロトタイプ開発とベータ版の開発には、Ruby開発者のまつもとゆきひろ氏が所属するネットワーク応用通信研究所（NaCI）の協力を得た。これも開発がスムーズに進んだ要因となったようだ。

ただし、「何しろRubyを利用した初案件なので、セキュリティ面や性能面の品質が不安だった」（濱中氏）。そこでニフティは自社ツールを使い、クロスサイト・スクリプティングなどの脆弱性がないうかを念入りにチェックした。加えて、品質検査の専門部隊に負荷テストを依頼した。その結果、「品質とセキュリティの両面とも問題なくクリアした」（鎌仲マネージャー）という。

ニフティは続いて5月に、Rubyで実現

した会員向けプロフィール提供サービス「アバウトミー（ベータ）」を提供。今年中に、さらに新たなWebサイトを構築する予定という。「社内でRubyを使う案件は着実に増えている」と、鎌仲マネージャーは話す。

この動きを受けて、Web系の新技术を研究する@niftyラボの技術者が中心となり、毎月RubyをはじめとするWeb技術の勉強会を開いている（写真1）。「もっぱらPerlを使っているという技術者も参加するなど、Rubyに興味のある人たちが確実に増えている」と濱中氏はみる。

図1 @nifty TimeLineの画面

